

伸びた学習法の実例(2)

2024. 1. 26 (金)

フロローグ

目標の大学・高校に合格した人たちが数専ゼミで実際に学習した方法を紹介しましょう。

中学生の場合、山形東、西高に合格した人たち

あるいは、ICU(国際基督教高等学校)や澁谷幕張高校に合格した人たち

また、高校生の場合、東北大(医学部, 経済学部, 文学部), 自治医科大学(医学科),

昭和大学(歯学部), 山形大学(医学部)に合格した人たち

もくじ

「伸びた学習法の実例」について、次の3つの項目で紹介します。

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| (1) 数専ゼミでは、何を教えてもらえるのか | → Essay_621 |
| (2) 数専ゼミでは、どのように教えてもらえるのか | →Essay_622 今回 |
| (3) 「テスト対策」についてーとりわけテスト後対策についてー | →NEXT |



(2) 数専ゼミでは、どのように教えてもらえるのか

次に数専ゼミの教室での学習指導の基本プロセスを紹介します。

「学習計画書」より、教材サンプルをダウンロードし、それを印刷し、

その教材を見ながら説明をご覧ください。

教材サンプル：[|教育エッセーMENU|](#)に多数の教材サンプルを紹介しています。

*** 学習の基本は、「教わる」ではなく、「学び取る」ということです。**

「教えてもらったこと」はその場では理解したとしても、1週間ほどすると忘れてしまいます。自分で理解したと思っても、実は教え方のうまい先生に「じょうずに理解させられる」からです。

「自分で学び取ったこと」は、自分で、自分の知識の引き出しに整然としまいこむことができるので、いつでも、必要なときに取り出して使うことができます。

「わかったつもり」学習から「自分で分かる」学習へ切り替えるのが数専ゼミの以下に紹介する「学力化学習法」です。

1 学習 (★知識の整理★, ★解法の技術★)

① プリント(★知識の整理★や★解法の技術★)を学習します。

学習目標として設定された問題を解くときに必要な知識（言葉，規則，定理，関連事項など）や問題の解き方(解法のプロセス)を学びとります。

基本は自学自修です。

理解できないところは先生に教えてもらって下さい。

難しい問題のときには，最初から先生の指導が入ります。

② ここでは知識をデータベース化します。

「データベース化」とは，新しい知識を既存の自分の「知識の網」に組み込むことです。問題を解きながら，知識を必要なときにいつでも取り出せるように整理しながら覚えます。

最重要な学習部分です。

2 チェック (★理解のチェック★)

① ★理解のチェック★の問題を解きます。

ここでは，「1 学習」で学びとった「問題の解き方」を本当にマスターしたかどうかをチェックします。

★解法の技術★のプリントを見てはいけません。

見てしまうと，本当に問題の解き方を理解したのかどうかを判定できないからです。

解けないのに解けることになって先へ進むため，応用問題が解けなくなります。

② 解けない時は，★解法の技術★を再学習します。

「解き方」を覚え直したら，もう一度★理解のチェック★の問題を解きます。

(やはり，ここでも★解法の技術★のプリントを見てはいけません。)

学習結果は，すべての学習プロセスで，「学習記録」に記録されます。

解けたら○，まちがえたら×が記録されます。

→ サンプル | [教育エッセー MENU](#) | 学習計画書_m73 (タイトル黄色反転セル)

「×問題」は，次回にもう一度解きます。

○になるまで，チェックを繰り返します。(これが「**学力化学習法**」です。)

* 前回の授業までの「学習記録」は，授業の最初に渡します。

これを見ることで，どのタイプ問題が解けて、どのタイプの問題がまだ解けていないかを，視覚的かつ体系的に知ることができます。

*学習の終わったプリントは、リングファイルに番号順のファイルしておきます。後で、「学習資料」として利用するからです。

3 演習 (★演習★【1】)

①★解法の技術★で学んだ解き方を応用して問題を解きます。

演習【1】では、★解法の技術★とほぼ同じ考え方で解ける問題です。

★解法の技術★や★理解のチェック★の再点検です。

演習【2】以降は、★解法の技術★の例題に新しい条件が付け加わったり、他の分野との融合問題になります。学んだことを応用する力を身につけます。

☆発展演習☆【】では、教科書の節末・章末、入試の標準問題レベルの問題を解きます。

(中学数学では、山形東、西高に合格できるレベルをねらう学習です。また、高校数学では、学校推薦や共通テスト80%あたりをねらうレベルの学習です。)

ここでは、★解法の技術★の解き方を見てもかまいません。

むしろ、よく見て、解き方のプロセスのまねをして、正しい考え方で答案が書けるようになることが目標となります。

②解き方が分からないときは、先生から教えてもらいます。

解けない時は、白紙のまま、プリントを先生に提出して下さい。

(ず～っと考えている人がいますが、そんなことをすると定期テストまでに問題が消化できなくなります。ということは、テストで高い得点が取れないということになり、学習効果がなると、塾をやめることとなります。)

最初、先生は解き方のヒントを与えてくれます。

それを使って解いてみて下さい。

それでも解けないときは、もう一度「分かりません。」と言って、プリントを先生に提出して下さい。

その時には、先生が最初から答まで、解法のプロセスを詳しくていねいに教えてくれます。

③学習結果は、1題ずつその正誤が、「学習記録」に記録されます。

「2 チェック」の二重線の枠内に詳しく紹介しております。

4 学力化 (家庭学習)

①塾で間違えた問題には、教材プリントの問題番号に水色の○がついています。

これらの問題については、次回までに、資料を見なくとも解けるように家で練習してきます。

この学習を「**学力化**」といい、「解けない」を「解ける」にするトレーニングです。

だから、テストの得点を左右する最も大切な学習です。

塾で学習しても、学校のテストで高い点を取れない人は、ほとんどがこの部分の学習をしていません。

②次回に、学力化レベルのチェックをします。(原則として同じ問題を解きます。)

解けないということは、「勉強してきませんでした」という”告白”になります。

5 チェック (学力化のチェック)

①前回まちがえた問題を、塾でもう一度解きます。

原則として同じ問題です。

どのような資料を見てもいけません。

今、自分が持っている学力のレベルを測定します。

資料を見ると、誤った学力判定がなされ、解けないのに解けたことになります。

一番危険な学習法です。

つまり、勉強しているのにテストで点が取れないという状態になります。

②解けなかった問題は、次回にもう一度学力化チェックを行います。

③何回も合格しない場合は、

この学習法に適しないと考えられますので、

他の形での学習指導を受けられることをお勧めする場合があります。

”勝つ”ための戦略的学習ができる数専ゼミの数学教室です！

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp

数専ゼミは、

ひとりひとりに細かいゆき届いた指導をすることができるように、総定員が20名ほどの学習塾です。

このスタンスで**創業52年目**の春を迎えます。